

組織・グループ名	ココロはずむアート展実行委員会
活動区分 ※いずれか1つに○をつける。	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般助成 <ul style="list-style-type: none"> ①当事者支え合い・当事者支援の促進 ②地域福祉ニーズ(課題)への対応 ③福祉の学び(参加型福祉教育)の推進 ④福祉コミュニティの構築 ● 協働事業助成 <ul style="list-style-type: none"> [1. 福祉教育・ボランティア学習プログラム構築に係る先駆的な活動 2. 地域住民、関係機関・団体の福祉意識の醸成を基盤とし、幅広い世代の社会参加推進に係る先駆的な活動]
助成事業名	ココロはずむアート展 PART10

助成事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕※活動の様子が分かる画像を2枚程度挿入すること。

ココロはずむアート展は障害のある成人と児童が制作する、アート作品を展示します。今回11の事業所から90人が絵画、書、織もの、ぬいぐるみ、刺繍等を出品しました。

9/9から11/27までの3カ月間を4会場で開催しました。青葉区のスペースナナ、緑区の カプカプ竹山、都筑区のカプカプ川和、緑区のアート屋わんどを会場にして開催しましたが、5番目の青葉区のえだ福祉ホームはコロナ感染非常事態宣言で開催を断念しました。4会場の観客数は総数343人でした。

会場では、作品と並べて作家カードを掲示しています。会期中に、アートワークショップ「作家と一緒に制作しよう」、ココロはずむアート展報告会「作家を語る・作家が語る」を開催しました。どれも、作家の人柄を知って貰いたい、関心を持ち彼らと友だちになってもらいたい、との願いです。

地元特養と作品の交換展示、子育て支援拠点での展示、横浜市役所の市民協働推進センターや緑区障害者週間でも依頼されて展示しました。

それらは皆「ココロはずむアート展」の認知が広まった成果と感じられます。

今回の展示では、「これってアートなの?」というコーナーを設け、これまでのアートの枠に納まらない作品を展示しました。どんどんアートの既存概念を取り払い、彼らの表現や発信を敏感でありたいと思います。障害のある彼ら自身が主役となる活動を今後も考えていきます。又、これまで参加が無かった重症心身障害者の表現、アート活動についても考えていきたいと思っています。



ワークショップの様子